

1級試験制度変更が影響

「24才以下」構成4割超え

2級建築士合格発表受け総評

総合資格

建築関係資格スクール・総合資格学院を運営する総合資格（東京都新宿区、岸隆司社長）は24日、8月23日に行われた11年度2級建築士学科試験の合格発表を受け総評を発表した。

総評によると、今年度の2級建築士学科試験の合格者数は8784人。前年に比べ1617人減少し、近年では最も少ない合格者数となった。合格率は前年から1・2ポイント下がり、38・2%。合格率は例年30%台で推

移しており、大きな変化は見られなかった。合格基準点は、総合点が60点、各科目が13点で、6年連続して補正はなかった。合格者属性を見ると、受験資格別では、主に大学の指定学科を卒業し、実務経験なしで受験可能な「学歴のみ」の構成比率が05年から08年までは52・8%、54・8%、58・3%、57・3%と増加傾向が続き、09年は61・7%と6割を越えた。そして今年度は64・6%となり、05年からは11・8

ポイント増加し、高学歴合格者の増加傾向が未だ続いている。

年齢別では「24才以下」の合格者の構成比率も近年、上昇し続けていたが、今年度は遂に4割を超え、41・1%まで上昇した。この背景について総評は「08年の建築士法改正に伴う1級建築士の受験資格要件の厳格化などで、大学院卒業後すぐに1級建築士を受験できる対象者が減少したことによって、1級建築士の受験資格を得られる期間を

有効に活用し、確実に2級建築士を取得し、実力と経験を積んでから1級建築士にチャレンジする、大卒・大学院卒などの高学歴層が増加している」と推察している。

加えて、近年の「業界における若手技術者の不足」によって、企業側の社員に対する早期資格取得の要請が強まり、新卒を始めとした若手社員が積極的に資格取得に動いたことも「24才以下」の合格者構成比率が増加した要因と見ている。

「研究生」区分の構成比率が新区分として、追加されるレベルに上昇したということが推測できている。

その要因に、昨今の大卒就職事情の影響が考えられる。過去最低の就職内定率91・0%（11年4月1日現在）を記録し、大学生（11年3月卒）就職内定率も、低迷が続く中で、少しでも有利な就職活動を進められるように、2級建築士の受験資格がある大学院生などが、在学中に資格取得をしようとする「学生の資格取得意識」の高まりも要因の1つ。こうした理由によって、来年度以降も若い年代の合格者の増加傾向は、続いていくものと見ている。